

こちら航空宇宙推進室 ニュースレター

北王コンサルタントより1,000万円の企業版ふるさと納税

町は北王コンサルタント株式会社より、北海道スペースポート（HOSPO）プロジェクトの資金として、企業版ふるさと納税として1,000万円のご寄附をいただきました。

町では、ロケット射場や格納庫など北海道スペースポートの施設を拡充する「ハード整備」と、町内の宇宙関連企業へのサポートや航空宇宙に関する普及啓発などの「ソフト支援」を2本柱にHOSPOプロジェクトを推進しています。

今回は「ハード整備」に対する支援として寄附をいただきました。寄附金は、現在工事を進めている人工衛星用ロケット射場「Launch Complex-1(LC-1)」の整備資金として活用します。



三伸工業 町内にサテライトオフィスを開設

JAXAのロケット射場設備の製造・開発を手掛ける三伸工業株式会社が、経済センター3階のコワーキングスペースにサテライトオフィスを開設しました。

同社は、ものづくり支援事業やカーボンニュートラル事業、社会インフラ事業、宇宙事業などを展開しています。

町内では、インターフェラテクノロジズ社のロケットエンジン試験設備の設計・開発を行っています。将来的な宇宙産業の拡大を見据え、宇宙港構想が進む大樹町にオフィスを構えました。

併せて同社の加地社長が北海道スペースポートの運営を担うSPACE COTAN株式会社の顧問に就き、ロケット射場の施設整備に向けて知見を提供いただきます。



日本宇宙少年団大樹分団 研修旅行in札幌

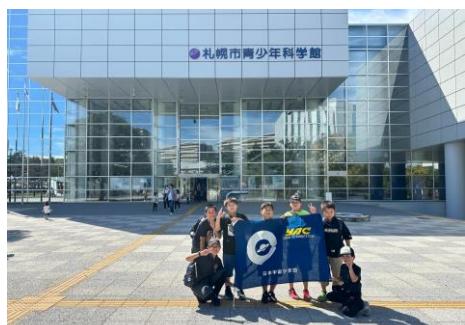
9月14日（土）から15日（日）にかけて、日本宇宙少年団大樹分団の研修旅行を札幌市で実施しました。

1日目は、札幌市の青少年科学館で日本宇宙少年団理事長の山崎直子氏からビデオメッセージをいただいた後、今年4月にリニューアルしたばかりの科学館とプラネタリウムを見学し、科学や天体観測などについて学びました。

2日目は、水口ケット大会を実施し、団員は自分で製作した機体を使って参加しました。個人種目の定点と落下地点の距離を競い合う競技で、大樹分団の半谷さんが第3位を受賞しました。

また、今回の研修旅行は、「日本宇宙少年団北海道ブロック交流会」と「水口ケット大会」に合わせて実施をし、札幌市、苫小牧市、釧路市の日本宇宙少年団と交流を深めることができました。

今後も日本宇宙少年団では、宇宙に関わる様々なことを学んでいきます。



札幌市青少年科学館



開会式の様子



水口ケット大会の様子

IST「ZERO」のエンジン用ターボポンプ燃走試験成功

インターフェラテクノロジズ社は、小型人工衛星打ち上げ用ロケット「ZERO」のエンジン用ターボポンプの燃走試験が成功したことを発表しました。これでサブスケールモデルでのターボポンプ開発はすべて完了しました。

ターボポンプは燃焼器に燃料と酸化剤を送る心臓部であり、「ZERO」では燃料ポンプと酸化剤ポンプを一体化させた「一軸方式」を採用しています。

燃料と酸化剤それぞれでポンプを分ける場合と比べて技術的な難度が高い一方、エンジンの小型・軽量化や部品点数の削減による低コスト化につながります。

ロケットの中で最も開発が難しい要素の一つとされるターボポンプで基幹ロケット開発企業以外では国内唯一、ターボポンプの技術を有する企業となりました。

※サブスケールとは、実際に作るものとの部分縮尺したもの



ターボポンプ (IST提供)